

福島県事故多発地点緊急対策事業について

1 目的

県民が安全で安心して暮らせる交通環境の実現を目指して、交通事故多発地点等について道路環境を中心とした詳細な事故分析を行い、交通事故の減少に向けた効果的で適切な施策の展開を図ることを目的としています。

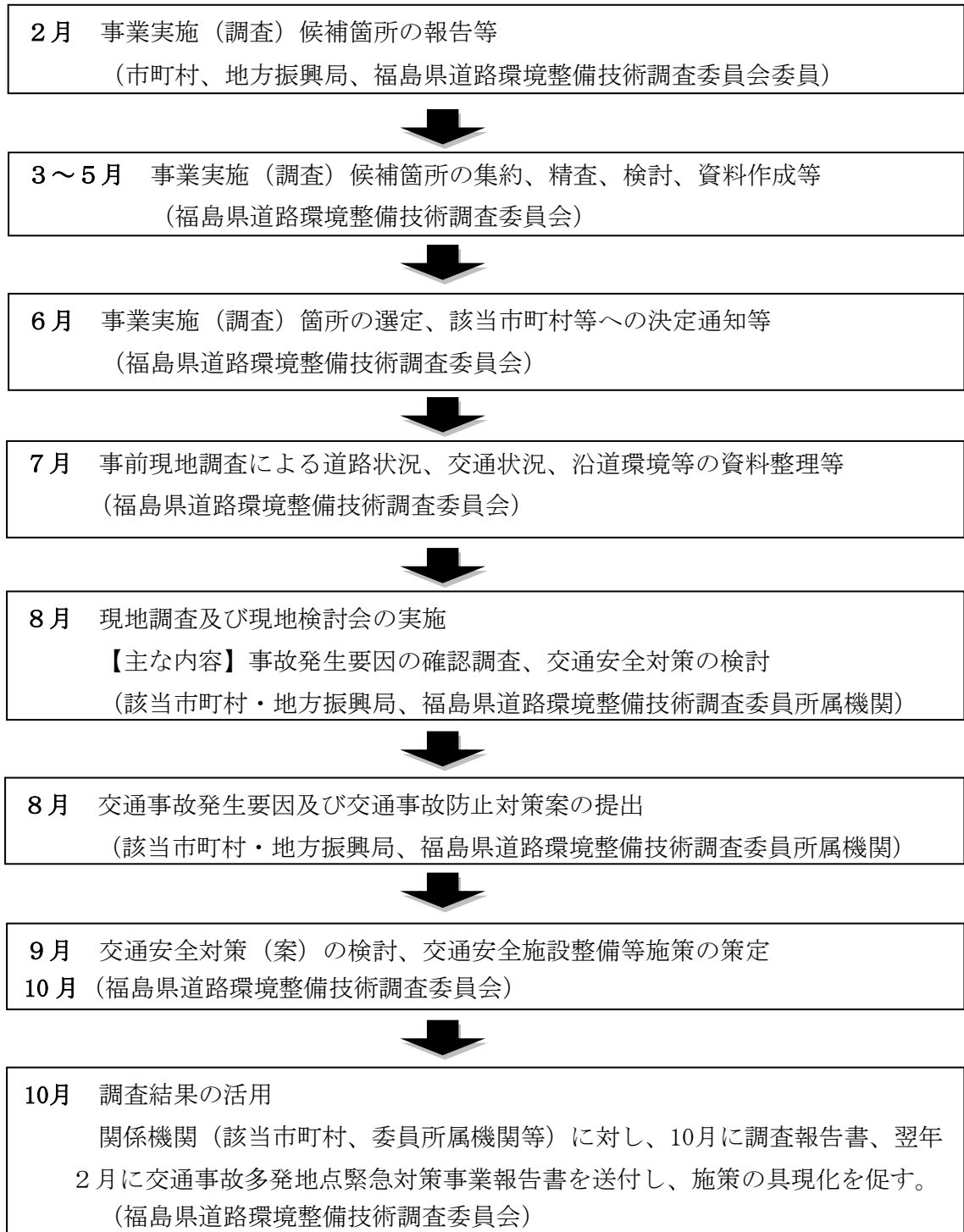
2 事業内容

福島県及び福島県道路環境整備技術調査委員会（※注参照）が、市町村等と協力し、次のとおり実施している事業です。

※注 「福島県道路環境整備技術調査委員会」

県内の交通危険箇所、交通渋滞箇所、都市交通等の交通問題を取り上げて調査研究し、その改善に役立てることを目的に設置されたものであり、地元大学等の学識経験者、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県生活環境部、関係市町村等により構成されています。

3 事業の主な工程



2年後 事後調査

関係機関（該当市町村、委員所属機関等）に対する対策推進状況の照会及び現地確認調査を行い、2年後に発行する交通事故多発地点緊急対策事業報告書により、調査結果を全市町村・振興局、委員所属機関にお知らせする。
(福島県道路環境整備技術調査委員会)

4 調査箇所数と事業実施前後における交通事故発生件数の対比

事業実施年（調査箇所数）	実施前2年間	実施後2年間	増減率
令和 元年 （7箇所）	112件	65件	△42.0%
平成30年 （6箇所）	96件	73件	△24.0%
平成29年 （6箇所）	83件	23件	△72.3%
平成28年 （6箇所）	29件	7件	△75.9%
平成27年 （6箇所）	41件	16件	△61.0%
平成26年 （7箇所）	74件	40件	△45.9%
平成25年 （8箇所）	68件	30件	△55.9%
平成24年 （6箇所）	29件	13件	△55.2%
平成23年 （5箇所）	44件	25件	△43.2%
平成22年 （9箇所）	52件	23件	△55.8%

参考 福島県事故多発地点緊急対策事業の経緯

福島県事故多発地点緊急対策事業は、昭和45年に当時の県立福島医科大学生理学第二講座の御協力により、交通安全道路診断として開始したものです。当時は、高度経済成長下で交通事故が急激に増加し、“交通戦争”ともいわれておりました。

そこで、交通環境が運転者に与える影響等の人間工学的視点にも配慮して、問題のある地点に適切な交通安全施設等を整備し、さらに、それらの施設等が十分に効果を発揮できるような交通規制を実施しようと、昭和47年に福島県道路環境整備技術調査委員会を設置し、現在の活動に至りました。

福島県の交通事故死者が最も多かった昭和44年当時は死者が398人に上っていましたが、52年後の令和3年の死者数は49人となり、約9割減少しました。

このことは、もちろん数多くの交通関係機関・団体の皆様方の長年の活動等により、県民の交通安全意識の向上が図られた成果でございますが、本事業の活動も着実に効果を現してきたものと考えております。

交通事故防止に携わる多くの方々に、広く本事業の事例を公開することにより、参考として活用していただければ幸いであるとの考えから、これまでに取り組んできた数多くの事例の中から、取扱頻度が高い類似する交通環境問題のある事例をホームページに掲載しました。





本事業の立ち上げ段階から40年以上もの長きに亘り、特段の御指導・御協力をいただきました福島県立医科大学片平清昭教授をはじめ、福島大学永幡幸司教授、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県内市町村等の皆様方に対し、深く感謝を申し上げます。

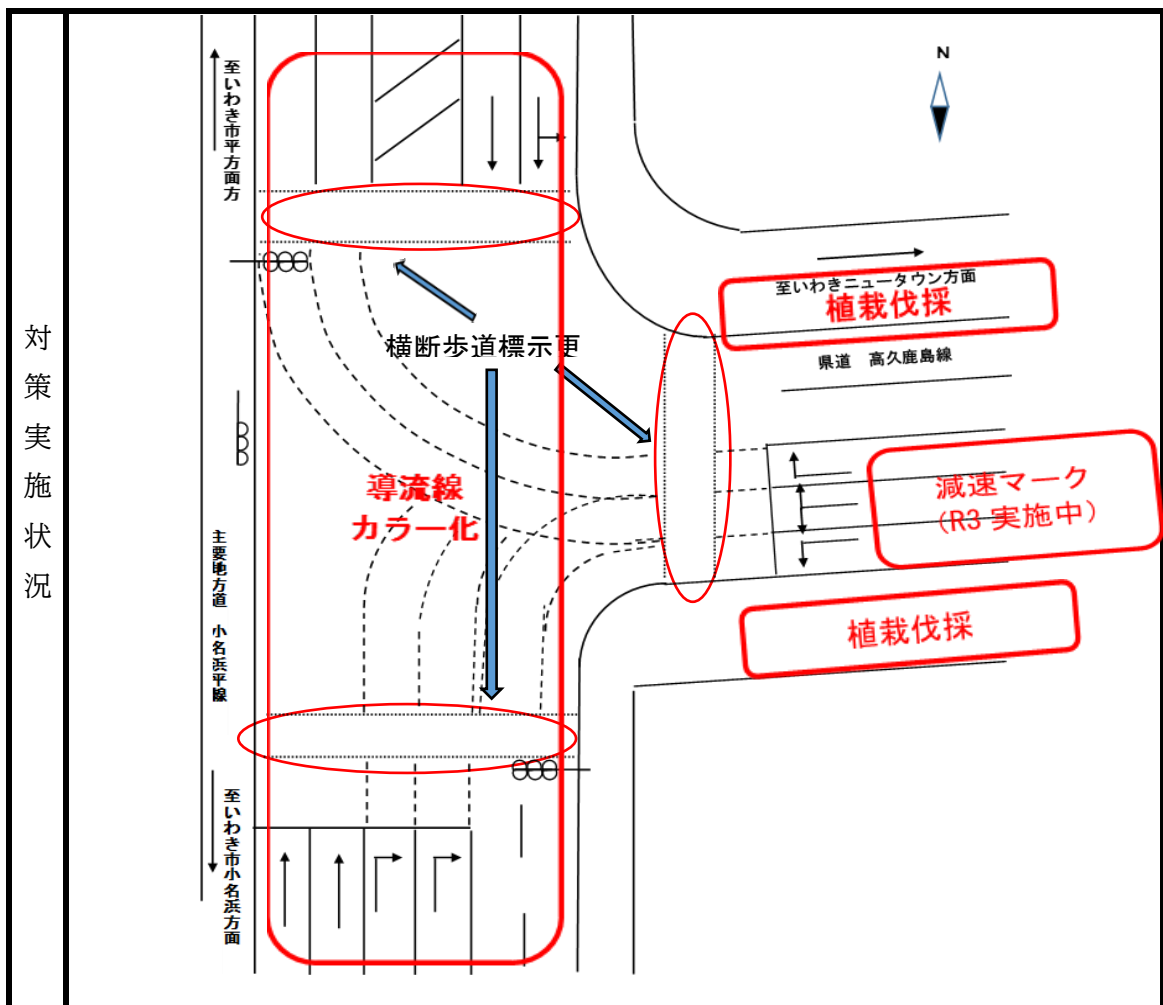
令和元年度事業箇所と交通事故発生状況比較

番号	路線名	調査場所	通称名	交通事故発生状況(高齢者は内数)								
				調査年月日	H29		H30		R2		R3	
					全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者
1	市道 方木田茶屋下線 市道 太田町宮の東線	福島市野田町六丁目23番の2先	上八木田橋北交差点	件数	11	3	12	1	10	3	4	1
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月1日	傷者	1	0	0	0	2	0	1	0
2	市道新白河駅南湖線 市道老久保2号線	白河市転坂139番先	カインズホーム東交差点	件数	6	4	5	4	4	0	6	4
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月1日	傷者	1	1	1	0	0	0	1	0
3	市道新白河27号線 市道新白河26号線	白河市新白河二丁目41番先	新白河二丁目第4交差点	件数	5	0	4	1	2	2	0	0
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月1日	傷者	1	0	0	0	0	0	0	0
4	県道 会津若松会津高田線	大沼郡会津美里町字新町160番2先	単路	件数	2	2	4	2	5	3	5	2
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月2日	傷者	1	0	2	1	0	0	1	0
5	国道118号(若松西バイパス) 国道401号	会津若松市門田町大字飯寺字村西844番先	飯寺交差点	件数	8	3	10	1	5	1	7	2
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月2日	傷者	4	1	2	0	3	0	1	0
6	主要地方道 会津若松裏磐梯線 市道3-358号	会津若松市宝町1番18号先	小田橋交差点	件数	8	1	8	0	1	0	0	0
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月2日	傷者	5	1	1	0	0	0	0	0
7	県道小名浜・平線 県道高久鹿島線	いわき市鹿島町下矢田字曲田47番先	いわきニュータウン南入口交差点	件数	14	5	15	7	10	4	6	1
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
			令和1年8月1日	傷者	3	1	1	1	3	0	1	0
合 計				件数	54	18	58	16	37	13	28	10
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
				傷者	16	4	7	2	8	0	5	0
事業実施前後における交通事故発生状況対比				実施前				実施後				
				全体		高齢者		全体		高齢者		
				件数	112	34	65	23				
				死者	0	0	0	0				
				傷者	23	6	13	0				

※全体件数 = -42.0%
 ※全体傷者数 = -43.5%
 ※高齢者件数 = -32.4%
 ※高齢者傷者数 = -100.0%

令和元年度事業の事例紹介 (いわきニュータウン南入口交差点)

	写真 ①	写真 ②
令和元年度の状況		
令和3年度の状況		



過去5年の事業実施箇所及び交通事故発生傾向と注意点

年度	番号	路線名	市町村名	調査場所	交通事故発生傾向と注意点
令和三年	1	主要地方道福島保原線	伊達市	伊達市保原町字四丁目2番地先 <四丁目交差点>	信号機の認識不足が要因となる事故が多い。連続する信号機や看板等の情報量が多く、注意散漫になりがち。確実な前方確認と脇道から出る車両に注意。今後、信号機LED化や交差点内カラー化等の施工予定。
	2	市道東部環状線	須賀川市	須賀川市岩瀬森75番2先 <須賀川二中入口交差点>	追突事故が特に多く、車線変更時の衝突事故も発生。交差点が勾配、カーブの頂点部に位置する上、渋滞発生があり、車間距離の確保や安全な速度での通行を。車線変更禁止規制や右折レーン延長等を施工予定。
	3	県道原町海老相馬線	南相馬市	南相馬市原町区本町一丁目150番先 <資成堂前交差点>	信号機の見落としによる出会い頭の事故が多発。確実な前方確認と脇道からの車両に注意。交差点カラー化や交差点手前の体感舗装等を施工予定。
令和二年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。					
令和元年	1	市道 方木田・茶屋下線	福島市	福島市野田町六丁目23番の2先 <上八木田橋北交差点>	事故発生の半数が出会い頭の衝突事故、次いで追突事故が多い。赤色点滅信号での確実な一旦停止と渋滞発生時の確実な前方注視を。
	2	市道新白河27号線	白河市	白河市新白河二丁目41番先 <新白河二丁目第4交差点>	点滅信号の見落としや交差点の見落としによる出会い頭衝突事故が多発。幅員も狭く見通しが悪いので赤、黄色点滅どちら側も確実な安全確認を。
	3	市道新白河駅南湖線	白河市	白河市坂本139番先 <カインズホーム東交差点>	安全確認不足での出会い頭事故が多発。見通しが悪いので、一時停止標識のある箇所は確実な一旦停止と安全確認を。
	4	県道会津若松会津高田線	会津美里町	大沼郡会津美里町字新町160番2付近沿線	沿線の店舗駐車場への出入りに誘発される追突事故が多発。商店街付近の走行では脇見や速度に注意し運転を。
	5	国道118号(若松西バイパス)	会津若松市	会津若松市門田大字飯寺字村西844番 <飯寺交差点>	自動車右左折時に横断歩道を横断する自転車や歩行者と衝突する事故が多発。交差点が大きく右左折時にスピードが出やすい。右左折前の安全確認を徹底し、横断歩道の自転車や歩行者保護を。
	6	主要地方道会津若松裏磐梯線	会津若松市	会津若松市宝町1番18号 <小田橋交差点>	追突事故が多く、次いで右折直進の衝突事故が多発。交通量が多い上、連続した信号交差点で渋滞が発生するので、車間距離の確保と確実な前方注視を。
	7	県道小名浜・平線	いわき市	いわき市鹿島町下矢田字曲田47番先 <いわきニュータウン南入口交差点>	追突事故が最も多く、次いで右左折時の衝突事故が多発。ニュータウン側からの下り勾配で追突事故が多い。速度の出過ぎに注意し早めのブレーキを。
平成三〇年	1	県道福島吾妻裏磐梯線	福島市	福島市太田町14番8号先 <あづま陸橋西交差点>	追突事故が最も多く、次いで信号無視や車線変更時の衝突事故が多発。早め早めの車線変更と右左折レーンや導流表示に従った走行を。
	2	市道荒井・長者線	郡山市	郡山市字名倉83番の1先 <名倉交差点>	車両の右左折時に自転車を巻き込む事故が多発。道路幅員が狭い上に交通量が多いので、右左折時の安全確認を徹底し、通行する学生運転の自転車や歩行者に注意を。
	3	会津縦貫北道路	喜多方市	喜多方市関柴町西勝字西原297番の1先 <喜多方インター交差点>	追突事故が最も多く発生。交差点付近の減速や車間距離の確保を。
	4	国道121号	下郷町	下郷町大字中妻字大百刈93番地先 <下郷消防署前>	カーブ先の店舗駐車場出入りに誘発される追突事故が多発。商店街付近では走行速度や脇見運転に注意を。
	5	市道十五丁目・若葉台線	いわき市	いわき市平上荒川字堀ノ内8番の1先 <上荒川交差点>	コンビニ店に出入りする車と直進車両の衝突事故が多発。店舗手前では前車が減速するだろうなどの危険防止予測運転に心がけましょう。
	6	市道内郷・平線	いわき市	いわき市平谷川瀬三丁目1番の1先 <新田橋南交差点>	追突事故が最も多く、次いで右折直進の衝突事故が多発。交差点が大きく、交差点内が盛り上がる交差点なので、交差点手前での減速と右左折時の確実な安全確認を。
平成二九年	1	市道鎌田笹谷線	福島市	福島市北矢野目字樋越1番 <卸団地南入口交差点>	追突事故が最も多く発生。交通量も多く慢性的な渋滞発生と前方不注視・安全不確認等ドライバーの不注によるものが多い。漫然運転に注意。
	2	市道中部217号線	相馬市	相馬市中村字錦町4番地の11 <前沢目公園南東角交差点>	一時停止標識を北進する車両と東進する車両の出会い頭事故が特に多く発生。幅員も狭く見通しが悪いので通行の際はどちら側も確実な安全確認を。
	3	市道坪ヶ迫西山線	相馬市	相馬市黒木字四反田32番地の1 <ザ・ダイソー相馬黒木店前>	エイトタウン駐車場から出る車両と南進する直進車両の出会い頭事故が特に多発。同交差点手前での減速等、危険予測運転に心がけましょう。
	4	国道399号	いわき市	いわき市平字田町51番 <田町交差点>	追突事故が最も多く、その他右左折時の出会い頭、車線変更時の衝突、歩行者との衝突や単独事故等様々な様態で発生。変型交差点であり1日を通し交通量が多いことから、同交差点通行時は緊張感を持って運転を。
	5	市道番匠地・下馬場線	いわき市	いわき市内郷高坂町砂子94番 <保健福祉センター東側丁字路交差点>	車と歩行者の衝突事故、路外施設から道路に進入した出会い頭事故等が発生。下り勾配の左カーブ先に横断歩道があるため速度超過し、歩道、施設出入口などの路外にも注意を。
	6	市道渚滝尻線	いわき市	いわき市泉町滝尻字下谷地2番の7 <ヨークベニマル泉店南西角交差点>	泉玉露団地方面から同交差点に向かう車の追突事故や同方面からの右折時の衝突事故が多発。交差点手前での減速と右左折時の確実な安全確認を。